



発行/小諸市公民館  
編集/館報編集委員会  
〒384-0801  
長野県小諸市甲1275-2  
TEL 0267-23-8880  
FAX 0267-25-2224



公民館講座 12/18(土)開催

『親子で挑戦!ヘクセンハウス』  
～ お菓子のお家作り～

こもろ女性の家 12/8(水)開催

『お家時間を楽しむ』  
～ 竹ランプづくり～



❖内容

- p.16~17 小諸市成人式 (R3年)
- p.18~19 『ぼくとわたしの作品』 (千曲小学校)
- 『えんぴつリレー』 (市区 中村糸子)
- 『教えて!あなたのサークル』 (合唱団小諸ハーモニー/手編教室)

- p.20 『今支館・分館では』 (御幸町分館)
- 【募集】音楽のまち・こもろ推進協力団体
- p.21 【報告】公民館関係役員研修会ほか

2月の今日は何の日か? 2月も毎日何かの記念日が制定されています。その中で28日は「バカヤローの日」だそうです。これは、1953年(昭和28年)2月28日、当時の首相だった吉田茂が、衆議院予算委員会で西村栄一議員との質疑応答中に言った一言から、半月後に衆議院が解散となったこと由来して制定された記念日です。

コロナ禍で日常生活が一変し、既に2年が経過しました。新型コロナウイルス感染症で最愛の人を亡くした人、感染し重い後遺症に今なお悩まされている人や、生活に困窮している人たちからは、「新型コロナウイルスのバカヤロー」という怒りの声が聞こえてきそうです。ウイルスは、今でもいろいろな変異を繰り返し、再び猛威を振るい始め、感染者が急拡大しています。

3回目のワクチン接種に期待がかかるのと同時に、近い将来、更に効果のあるワクチンや治療薬などが開発されることで、一日も早く終息の日を迎え、「新型コロナウイルス終息の日」が記念日に制定されることを切に願っています。

編集委員 小田中 衛





令和3年

# 小諸市成人式

輝く未来  
それぞれの金メダルをめざして



令和4年1月3日(月)、小諸市総合体育館で昨年開催できなかった令和3年の成人式が行われました。多くの参加者が友人や恩師との再会を喜び合いました。成人式の実行委員の皆さんから成人としての決意をお聞きしましたのでご紹介します。

## 『抱負』

実行委員長 中澤 健太郎



新型コロナウイルスが世界中に猛威を振るい、従来の生活ができない今日において、自分たちに何ができるのかということを日々考え、行動していかなければならないと感じております。この新型コロナウイルスを終息させるため、私たち若者が社会の一員であるという自覚を持ち、生活し

## 『成人式を迎えるにあたって思うこと』

実行委員 平川 葵



自分が成人式を迎えるなんて不思議な気持ちです。これからは大人としてみなさんより自分で責任を持つようになります。ですが、まだ心は子どもままで、今までのままだいいと思ってしまいます。そんな大人でも子どもでもない不思議な感覚です。しかし、そんな私だからこ

## 『看護師となり』

実行委員 原田 彩絵



一生に一度の憧れていた成人の、晴れの日を無事に迎えられる、とても嬉しく思っています。今後は皆様から大人として見られる自覚をもち、恥ずかしくない行動をしていきます。例えば、ルールを守り、人に迷惑をかけない、周りの方への感謝を忘れないなどを



ていきたいと思っています。

さて、私達は昨年20歳を迎え、すでに職業に従事している人や、学業に励んでいる人など、様々な立場で生活しています。成人を迎え、これからはより一層の自覚と責任、社会の一員として向上心を持ち、精進する所存です。

私は、高校を卒業後、大学に進学し、今はスポーツや教育について学んでいます。将来は、スポーツや教育に関わり、この地元の長野県で就職し、地域貢献したいと考えています。

少子高齢化が社会問題となつている今日において、若い力は小諸市のみならず、長野県や日本が発展していくのに、必要不可欠であると思います。自分たちが、社会を引っ張っていきけるよう、これからますます精進していきたいと思えます。

そ成長できるのではないかと  
思います。それは、他人から  
みる私と自分自身でみる私の  
ズレがあるからこそ、新しい  
視点から物事を捉え、学ぶこ  
とができると思つたからです。

また昨年も新型コロナウイルスの影響により、学校に行く、友達に会うなどが難しい年になりました。予測できない日々の中、当たり前だと思つていることは、当たり前ではないと強く感じました。そんな限られた時間の中、自分はどうなりたいのだろうかという悩み、時には失敗することもあると思います。それでも、自分にしかできないこと、なりたい自分を見つけていきたいと思えます。

今まで多くの方に支えて頂いたからこそ今の自分がいます。感謝の気持ちを忘れず、これからは自分が支える側になれるように、恩返しをしていきたいです。

心がけていきたいです。私が  
生きてきた20年間は家族をは  
じめ学校の先生方、友人、地  
域の方、様々な方に支えられ  
てきました。母と姉は考えを  
否定せずいつも味方でいてく  
れます。そんな二人が心の支  
えとなり、今頑張れています。  
学校の先生方は親身に話を聞  
いてくださり、夢を応援して  
くださいました。友人が毎回  
かけてくれる温かい言葉のお  
かげで前を向いて歩いていま  
す。私が安全に生活できたの  
は地域の方の優しい声掛け、  
見守りがあつたからです。

周りで私を支えてくださつた方々への恩返しとして、努力し、幼いころからの夢だった看護師となり、母と姉を安心させ、恩師に夢をかなえた姿を見せたいと思います。そして地域へ貢献していきたいです。

『輝く千曲小学校』



5年 つちくら かいし 土倉 魁史

僕達のクラスでは、「千曲小学校の上玄関」の絵を描きました。僕の描いた絵で気を付けたポイントがいくつかあります。

『毎日通っている千曲小学校』



5年 とおやま かり 遠山 馮縁

わたしが描いたのは千曲小学校の上玄関です。工夫したところは三つあります。一つ目は校舎のかわらです。かわらでは、色を違う色に変えないようにするのが難しく



千曲小学校

一つ目は、暗い色を出さないようにすることです。なぜかという、暗い色を出すと目立つからです。リアルな色を使わないで明るい色を使って描きました。

二つ目は、目立ち過ぎない程度に強い感じの色を出しました。なぜかという、僕の千曲小学校のイメージは、弱く優しい感じではなく、強ちよっと濃い感じだからです。三つめは、季節感を出しま

つたです。そして、かわらの形も最初どうやって描けばいいのかわからなかったけれど、友だちに教えてもらったら、ちゃんと出来たのですごうれしかったです。

二つ目は、空と地面です。空と地面では、遠近法を使うために、遠くなっていくところをうすくするのが難しかったです。けれど、水を使っうすくしてやっていったら意外と上手く出来たのでよかつ

した。秋に描いた絵なので木などは茶色やオレンジ色を混ぜて秋っぽくして描きました。四つ目は、歴史を感じさせるように描きました。それは、先輩達が長年勉強に励み大切に使用してきたから、歴史ある学校をイメージして絵を描きました。

これからも、この素晴らしい学校を大切にしたいと思います。後輩たちが、いつまでも元気で楽しく勉強が出来る学校であってほしいと思います。そして、学校の伝統を守ってもらいたいのです。

三つめは、植物の葉の色です。描いたときは、秋だったから紅葉している感じに緑と黄土色を使ってちよっと色が変わっていくところを再現しました。そうしたら意外に校舎と合っていてうれしかったです。

私は、この絵を描いてみて、自分が描きたかった千曲小の絵になってうれしかったし、みんなの絵も上手だったから次からはみんなも参考に描きたいです。自分が「よかつたな。」と思える作品が出来



てよかったです。

教えて！あなたのサークル

『合唱団小諸ハーモニー』

私たちは、安土桃山時代のヨーロッパから現代の日本の曲まで、幅広い分野の歌に取り組みながら毎週金曜日の19時から21時まで練習しています。公民館が取れない場合は市民交流センターが会場となります。

活動内容は、定期演奏会、ミニコンサート、東信合唱祭、小諸市民音楽祭などです。

令和3年も小中高校生の活躍は目覚ましいものがあり、卒業してからも一緒に活動できるような土台作りができるように頑張って活動を続けたいと思います。

代表 横山 弘





## 『ウォーキング』

市区 中村 糸子

私が「毎日ウォーキングする」を日課と決めたのは、20年ほど前、糖尿病を発症したためでした。食生活、運動な

どそれまでの生活を見直しました。手取り早くできる運動をすることに決め、「毎日5千歩以上歩くこと」を目標にしました。幸いなことに私の家は、目の前に基盤整備された田畑が広がっていて、自宅を基点に農道を四角に歩けば、一周約4・5



kmあります。まず、西へ向かうと、美ヶ原高原が遠くに見え、突き当りを左折すると、南に八ヶ岳連峰がそびえ、次に左折すると、佐久平の広い空がひらけます。少し傾斜の道を進み、突き当りを左折すると北に浅間山がでんとそびえていて、それを見ながら我が家に戻ります。私の足で約6千歩、5分ほどかかります。

す。

最初は、農作業する人達のそばを歩くのは、暇人のようで気がひけましたが、「野菜を作る代わりに私は健康を作る」と決めて、毎日5千歩以上を歩きます。同じ道なのに、周りの景色が毎日違うこと、特に春から夏にかけての新緑の美しいこと、道端の次々に咲く花を楽しみ、ひばりの声に空を見上げ、時には雉が飛び出しびっくりしたこともありました。

また、歩きながら行き交う車のナンバーの2桁の数字を見て足し算をしては、退屈を紛らわしています。歩かない日は、何か忘れ物をしたように落ち着かず、夜に歩きます。雪の日や雨のひどい日は、近くのスーパーで店内のウォーキングコースを歩いたり、家の階段を昇り降りしたこともありました。約20年続けて血糖値も安定し、80歳を過ぎても足腰に痛みがなくなりました。

最近、小諸市の「健幸マイレージ」のアプリを使って、目標達成のトロフィーを8個獲得しました。これも励みになっています。

また、歩きながら趣味の短



歌を作る題材を得ることも多々あります。

### ●着膨れし

わが身は帆かけ船のやう 追風うけて小走りにゆく

### ●見のかぎり

大野水池ぞ六月の

雨を満たして稲田鎮もる

### ●点滅の清き螢を飽かず見て

今宵すなほに夫に寄り添ふ

### ●仰ぎ見る秋空深し吾亦紅にとんぼが止まる朝の道ゆく

これからも楽しみながら、ウォーキングを続けていきたいと思えます。

## 『手編教室』

以前より、やってみたくも思っていた手編教室に入会しました。経験豊富な先生を始め13人の仲間達と世間話などしながら、仲良く楽しい時間を過ごし、それぞれの作品に取り組んでいます。初めて挑戦し、編みあがる感動はなんとも言えず満足感があります。こうして編みあがった作品を公民館まつりに展示させていただきます。

毎月第2・4水曜日午後、教室を開いています。もし、ご希望の方がおられましたら、一度教室にお出掛けください。

代表 依田 はな子



# 今支館・分館では

## 「御幸町分館作品展」 — 御幸町分館 —

11月6日(土)、7日(日)の2日間にわたり第54回御幸町区作品展を開催しました。9月下旬より回覧にて区民に作品の出版依頼をしましたが、10月中旬になっても出品者の人数は一桁台、開催2週間前でも10名程度と今年も作品が集まらず、開催が危ぶまれていました。以前は会場の外まで展示品が集まり賑やかでしたが、近年は、出品者が減少し、例年の半分以下になってしまう



のではと推測されました。

そこで、作品が少ない場合を想定して、区民交流会を併せて行うこととし、開催

直前の回覧にて周知しました。約一週間前のことでした。「カフェ

みゆき」という名前でコーヒー、ジュース類、お菓子類、つまみ等を提供、土曜日夕方からはアルコール類すべてを無料とします。また、子どもの来場者には、お菓子・飴のつかみ取り、綿あめ作り、さらにゲーム等を用意して遊び場とします。」と回覧して人数も分らないまま準備に入りました。

不安の中開催すると土曜日の夕方からは40人を超え、土日の昼間でも合計60人位の来場者になりました。小学生だけで遊びに来たり、子どもが保護者同伴で来たり、今までの作品展の時と違い特に若い世代の方々が来場し、見学して遊んでもらうのは嬉しいことでした。これが正解とは言えませんが、見学者が少なく、出品者も少ない作品展をこれからどの様にしていけばいいのか考えなければいけない時期にきています。

御幸町分館長 櫻井 浩一  
(出品者人数は25名)



## — みんなの音楽活動を支援します —



音楽のまち・こもろ

# 「音楽のまち・こもろ推進協力団体」募集

小諸市は音楽があふれるまちをめざしています。そこで「音楽のまち・こもろ推進協力団体」を募集します。認定団体が「音楽のまち・こもろ」の冠を付した演奏会を、下記会場で開催する場合、その施設使用料(※)が免除となります。

### 対象施設

・小諸市文化センター(文化会館ホール)、小諸市市民交流センター(ステラホール)

※施設使用料は全額免除。(入場料有料の場合は50%減免)ただし、冷暖房費や備品使用料はご負担いただきます。

### 推進協力団体の認定要件(一部抜粋)

- 1 音楽のまち・こもろの推進に寄与する活動を行う、自発的な市民の活動団体であること
- 2 次の実態を備えた団体であること
  - ①会則があること
  - ②団体の意思を決定できる組織が確立していること
  - ③会計機能を有すること
  - ④団体活動の拠点として市内に事務所(自宅でも可)を有すること
- 3 営利事業、政治活動及び宗教活動を行う団体でないこと
- 4 活動している会員が5名以上いること
- 5 各施設の利用規約及び関係する法令を守って活動すること

### 申込み

所定の様式を令和4年2月28日(月)までに

教育委員会文化財・生涯学習課までご提出ください。

(様式は、文化財・生涯学習課窓口のほか、小諸市のホームページからも入手可。)



▼問い合わせ先 教育委員会 文化財・生涯学習課 ☎0267-22-1700

報告

## 公民館関係役員研修会

令和3年11月9日(火)小諸市文化センターで「コロナ禍での避難所・運営を考える」として、防災ネットワークしもすわ会長の高橋敦子さんを講師に迎えて公民館関係役員研修会が開催されました。

講師の高橋さんは、ご自身が漫才師になりたかったとおっしゃるだけあり、自らが演ずる掛け合い漫才のビデオから講演会が始まり、その後も映像を使い、わかりやすくユーモアを交えて避難所開設と運営、その実体験をお話してくださいました。

実際に災害が起こった時、パニックにならないようにするにはどうしたら良いか。具体的には避難所開設キット(ボールペン、ランタン、軍手、手順書等)を誰でもわかる場所に保管しておくことが大切です。

避難場所には通路を作って動線をつける。熱のある方などは隔離する。また、コロナ禍での避難所は、ブルーシートを張って家族ごとにゾーンを作り距離を取っての避難となるので、収容人数が極端に少なくなり被災者をどう誘導するかも重要課題です。

さらに、盗難への配慮も必要で、靴は脱いだら必ずビニール袋に入れて各自が持ち歩くことは、高級靴が紛失した失敗談から学んだそうです。

### ―避難所運営のための組織化―

◆**総務班** 全ての情報を取りまとめる。  
◆**救護衛生班** トイレ、洗面、感染対策キットの準備。特にトイレは水洗機能があるか確認する。持ち運びの出来る発泡スチロールのトイレは軽く便利ですが、あらかじめ組み立てる練習をしておくことが大切。

◆**食料・物資班** プッシュ支援では、使われない物資が倉庫に山積みになることもあるので、支援物資班はリストを作成して要請型として本部に知らせるのが良い。食事も人数に応じて作る。一度にたくさん作ってしまうと長期化の場合足りなくなる。また、おかゆなど年齢に応じて作る必要性も出てくる。

◆**情報班** 避難者受付等 携帯電話は混線してしまうので無線機などで災害対策本部に連絡をする。あらかじめ充電しておくこと。

様々な人々が協力して災害を乗り越えるには、組織化と訓練、準備が必要なことを学びました。自然災害を人の力で食い止めることは難しいですが、準備や訓練をすることで被害を少なくすることが出来ます。コロナ禍で人との接触を極力控えることが重要とされていますが、意識の上では親密に協力しあえる地域づくりが大切と思いました。

鶴巻分館長 岩下 順子

## 第42回 総合写真展

小諸市文化協会加盟団体による写真展です。

- ◆開催日 3月17日(木)～20日(日)
- ◆時間 10:00～17:00 ※最終日は16:00まで

※ご来場の際は、文化センター正面玄関より入り、マスク着用、連絡先のご記入にご協力ください。

問い合わせ先 小諸市文化協会 TEL0267-23-8880



## 第57回 小諸書芸展

―開催と作品募集―

- ◆開催日 3月11日(金)～13日(日)
- ◆時間 9:00～17:00 ※最終日は16:00まで
- ◆作品種別 漢字・仮名・漢字かな交り書 てん刻・刻字
- ◆募集資格 書道を愛好する方々 (市外の方も大歓迎)

- ◆出品料 会員1,000円/非会員3,000円
  - ◇お申込み 1月30日(日) 10:00～10:30 (時間厳守)
- ※鶴寿庵(東小諸)へ出品料を添えてお申込みください。

問い合わせ先 小諸書芸連盟会長 佐藤山 携帯090-9646-7063



## 「こんにちは」文化センターです!

11月30日(火)、更埴公民館運営協議会の皆さんが、小諸市公民館の取り組みについて視察のため来訪されました。昨年度、文部科学省の優良公民館表彰と全国公民館報コンクールで金賞を受賞した経緯や館報の編集方法などをお伝えするとともに、公民館報編集委員も同席し情報交換を行いました。編集委員が取材や原稿の執筆などを精力的に行っていることについて大変驚かされていました。



### 文化センター施設・備品受付開始日

【公民館・こもろ女性の家】	R 4年4月利用	予約2月1日(火)
(貸出備品含む)		
【乙女湖体育館】	R 4年8月利用	予約2月1日(火)
【文化会館】	R 5年2月利用	予約2月1日(火)

乙女湖体育館

展示会のお知らせ